

尻別川の未来を考える オビラメの会

55

OBIRAME RESTORATION GROUP
NEWSLETTER Mar. 2022

喜茂別町内の尻別川支流A川にリリースされた
イトウ稚魚たち。2021年9月26日、撮影・足立聡。

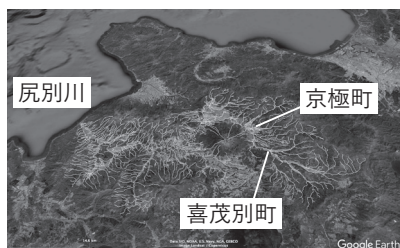
尻別川上流エリアに イトウ稚魚を放流しました

当会は2021年9月26日と28日、尻別川の上流域に当たる喜茂別町^{きもべつ}と京極町^{きょうごく}の合わせて3本の支流に、同年春に人工孵化させたイトウの稚魚たち計4400尾をリリースしました。

「オビラメ復活30年計画」（2001-2030年）に基づき、国際自然保護連合「再導入と保全移植」指針などに準拠しながら、喜茂別町役場や地元のNGO「きもべつ歴史プロジェクトの会 KHP」と協働で実施しました。尻別川上流エリアへの再導入は、2020年秋に続き2回目です。

同年5月に「有島 Pond」（ニセコ町）での人工授精の後、研究機関の専用施設で孵化・飼育されていた稚魚たちは、尾叉長約5cm。モニタリングで放流魚だと分かるよう、全個体のアブラビレをカットしてから、保冷ボックスに収納して現地に運び込みました。会員たちの手でビニール袋の口から流れに放たれると、流れに逆らうように懸命に泳ぎ始めました。

順調にいけば7～8年後、巨大な親魚となって繁殖のためにこれらの川に帰ってきてくれるはずです。



放流日	放流河川	親魚	放流数(尾)
2020/09/26	A川(喜茂別町)	デカ・チビ・ノリカ のこども	1814
2021/09/26	A川(喜茂別町)		1650
2021/09/26	B川(喜茂別町)		1650
2021/09/28	C川(京極町)		1100

オビラメの会の新キャンペーン

「イトウからのお願い」



1. イトウが釣れたらリリースしよう
2. 繁殖期のイトウ釣りはやめよう
3. 農道・農地に駐車するのはやめよう
4. 川を汚さず、ごみは持ち帰ろう



当 会は、「オビラメ復活 30 年計画」(2001-2030 年)に基づく新しいキャンペーン「イトウからのお願い」を、2022 年春からスタートします。

これまで 20 年あまりにわたる当会の取り組みにより、尻別イトウは、少しずつとはいえ、確実に数を増やしていると考えられます。それを裏づけるように「尻別川でイトウが釣れた」という釣り人の声も聞こえ出しました。現代では、こうした「釣果情報」が YouTube や SNS 上で飛び交うのを止めることは不可能でしょう。ただ、個体群を絶滅の危機から引き戻すところまでやっとたどり着いたばかりの尻別川で、釣果の情報だけが一人歩きして耳

目を集め、今度は釣り人自身が尻別イトウの一番の脅威になってしまうことを、私たちは危惧しています。

オビラメ復活 30 年計画を実行中のいま、尻別川でのイトウ釣りにおいて、「NO KILL (殺すなかれ)」は必須条件です。それを尻別川を訪れるすべての釣り人に実行してもらうために、このキャンペーンに取り組むことにしました。

新型コロナウイルス感染症の拡大のために会員同士なかなか顔を合わせられない中で、当会役員会はインターネット経由の Zoom 会議システムを利用して、数カ月わたってキャンペーンの企画を練ってきました。

当初はキャンペーンを「尻別ルール」と名づける案もありました。ただ「ルール」の語には強制的なニュアンスが



“These fish are too valuable to be caught only once.” — Lee Wulff

「この魚たちは、たった一度釣ってそれでおしまいにするには、あまりにも貴重すぎる」

撮影・玉井秀樹

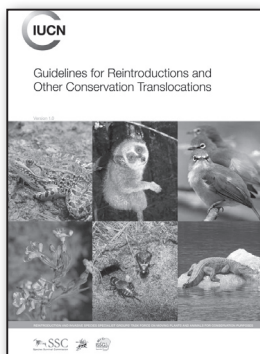
あります。尻別川を訪れる釣り人のみなさんに、決して強制的にはなく、「尻別イトウの保全と釣りの両立は可能だ」と理解してもらおう——言葉をかえればオビラメ復活をめざす「仲間」になってほしい、そんなメッセージを込めた発信を目指すことになりました。

キャンペーンを盛り上げるマスコット「しりべつオビくん」と「しりべつオビちゃん」は、当会理事・藤原弘昭さんのオリジナルデザインです。流域自治体やサポーターのみなさんと w 協働しながら、尻別川のほとりに看板を立てたり、釣り人のみなさんにステッカーを配ったり SNS で発信したり、さまざまな機会をとらえて「イトウからのお願い」を伝えていきます。

国際自然保護連合「再導入と保全移植の指針」ご紹介

オビラメの会は、国際自然保護連合の指針に従って慎重にイトウ尻別川個体群の再導入を進めています。指針は1995年に初版が公開され、改訂を経て、現在は2013年版の「再導入と保全移植の指針 IUCN/SSC (2013). Guidelines for Reintroductions and Other Conservation Translocations. Version 1.0」が推奨されています。

なぜこんな指針が必要なのでしょう？ 指針はこんなふうに説明しています。



「保全移植」とは、ある場所に生息する生物を別の場所に意図的に移動させることをいいます。この行為は、個体群、種、生態系の各レベルにおいて計測可能な保全上の利益を見込んで初めて実施されるべきで、移動させる個々の生き物たちの

ためにだけ行なわれるものではありません。

「保全移植」には、(1) その種のもともとの分布域に「補強」あるいは「再導入」する場合と、(2) もともとの生息地以外の場所に移す「保全導入（移動再定着の補助や生態学的置換を含む）」とがあります。

移植が効果的な保全のツールであることは間違いありませんが、平行して行なわれるその他の保全対策と厳密にすりあわせておく必要があります。移植とその他の保全対策とでコストやリスクを比

較検討して、実行可能かどうかを事前に評価しておきましょう。

移植にともなうリスクは多彩で、移送元・移送先の両方の地域において、対象とする生物種のみならず、その種が属する生物群集や生態系の機能にも影響が及び、場合によっては人間の生活にも影響します。移植を実施する前に、それぞれの状況や場面ごとに、あらゆるリスクを想定しておくことが重要です。リスクが大きければもちろんのこと、リスクやそのインパクトの大きさがはっきりしない場合でも、移植を実施してはなりません。

もともとの分布域からそれ以外の場所に生物を持ち出す行為が高いリスクをとまなうことは、そのように人為的に放たれた生物種がしばしば「侵略者」と化し、深刻な被害を引き起こしている実例が示しているとおりです。周囲にインパクトを及ぼさない移植はなく、批判は免れないのです。移植の実現可能性を検討したり計画を立てたりするさいには、社会的・経済的かつ政策的な要素の検討は欠かせません。こうした要素を計画に反映させるには、技術面と政策面、両方の専門家たちによる学際的なチームを編成するとよいでしょう。（指針「概要」から抄訳）

オビラメの会は、この指針を遵守することで、尻別川でのイトウ再導入プロジェクトが抱えるさまざまなリスクを最小化しようとしています。

指針全体の抄訳をオビラメの会ホームページで公開しています。どうぞ活用ください。

飼育イトウ移送は不首尾に

2021年6月6日、当会はニセコ町内の飼育施設「ヌプリの森水」などで育てていたイトウ6歳魚19尾を、およそ4km離れた親魚畜養施設「有島 Pond」に移送・放流しました。

19尾は、2015年春に倶知安町内のイトウ自然繁殖地で、野生イトウたちの産卵床から約50粒の授精卵を採取して人工孵化させ、再導入のための新しい親魚候補として飼育していました。有島 Pond への移送に合わせて測定したところ、19尾の平均尾叉長は47.5cmに達していました。

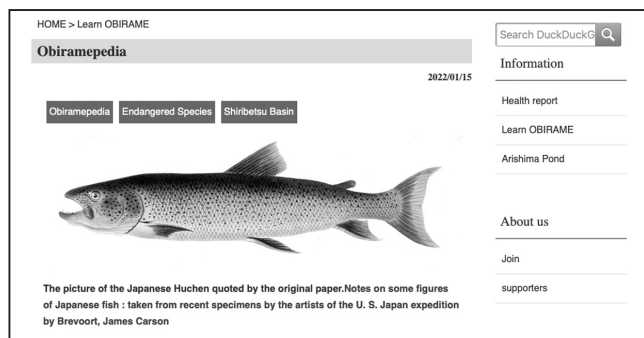
ところが、当日の移送と放流は計画通りに進み、魚たち

も新しい Pond で元気に泳ぎ始めていたのですが、数日後から衰弱・死亡した状態で見つかる個体が相次ぎだし、最終的には、移送後の3週間で19尾のうち16尾の死亡が確認されました。

死亡個体に目立った外傷や栄養不足の徴候は見つかりませんでした。有島 Pond では従来から約40尾のイトウ親魚（推定平均尾叉長80cm）を飼育しており、川村洋司事務局長は、「6歳魚たちが、先住の大型イトウから強いストレスを受けて衰弱してしまった可能性がある」と話しています。

オビラメの会の 新しいウェブサイト

オビラメの会のウェブサイトがこのほどリニューアルされました。全体のスタイルを一新したほか、「尻別イトウをまなぶ」「オビラメペディア」「尻別イトウの健康診断」、そして「イトウからのお願い」(→p2)などのページを追加し、尻別川におけるイトウ保護活動の情報源として、より使いやすい構成を目指しました。どうぞご活用ください。(広報担当幹事・平田剛士)



「オビラメの会」は新入会を歓迎します

当会は、会費と寄付金などで運営される非営利の市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、「入会希望」と書き添えて、右のゆうちょ銀行口座にお振り込み下さい(手数料はご負担願います)。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末(5月)までです。おむねひと月以内にニュースレターをお届けします。

- 年会費 2000 円
- ゆうちょ銀行
02720-9-11016
- 加入者名「オビラメの会」



ひごろのご支援に深く感謝いたします

(株)瀧澤電気工事(北海道苫小牧市) **patagonia®**

オビラメの会ニュースレター 第55号(2022年3月発行)

OBIRAME Newsletter No.55 March 2022

- 発行■ 尻別川の未来を考えるオビラメの会
会長/吉岡俊彦 事務局長/川村洋司
- 編集■ 平田剛士
- 印刷■ (株)須田製版(北海道滝川市栄町3-5-16)
- 口座■ ゆうちょ銀行 02720-9-11016 オビラメの会
- 事務局■ 北海道虻田郡ニセコ町ニセコ315-198(川村方)
〒048-1511 TEL 090-8279-8605
http://obirame.sakura.ne.jp/index.html
©2001-2022 Obirame Restoration Group

水と空気、みどりの大自然

ニセコが好きだ

楽しんだあとは川を語ろう

まぐろ屋十割

ニセコ町富士見 65 TEL/FAX 0136-44-2472

Email / itou110@sa2.gyao.ne.jp